新風会
上田（うえだ） 義定（よしさだ） 議員

都市計画

Q 本市の都市計画区域は52年間変わっていない。生活様式の変化、人口減少、災害の大規模化など、当時は予想できなかった変化がある。

都市計画区域内は都市計画税により都市基盤を整備できるが、目的税なので区域外には充当できない。区域外では課税はないが、恩恵も受けられない。誰もが同じ負担で同じサービスを受けられるよう、市民ひとしく、都市計画区域を市内全域に広げるべきと考えるがどうか。

A 有明地区は庁舎周辺に商業、医療、福祉、教育等の生活利便施設が集まっていることから、地域生活拠点としてのまちづくりを進めていかなければならない。

周辺部の良好な営農環境と農村、田園景観を保全し、土地利用区分の明確化を図り、市の一体的な発展と安全・安心なまちづくりの観点から、地域住民と意見交換しながら慎重に見直しを検討していきたい。

Q 都市計画区域の変更、市街化区域・調整区域の線引きをしてはどうか。議論を始めてはどうか。市長を先頭に将来の島原はこうあって欲しいというビジョンを市民で共有し明るい豊かなまちづくりができればと思う。

A 地域高規格道路の進捗が著しく、モータリゼーションの便利さを享受できる中心部が今後広がる。インターチェンジが出平に加えて有明にもできるので、住環境を整備すれば県央地域等へ働きながら生活できるようになるのではないか。

都市機能を持った農村にするには審議会等でビジョンを協議してもらえれば、有明の可能性は大きく広がる。話合いの場を持っていけるようにすることはいずれにせよ大切なので、諮ってみたい。

庶民の会
種村（たねむら） 繁徳（しげのり） 議員

新型コロナウイルス感染症対策

感染者増加の状況を乗り越えるためには、若い年齢層のワクチン接種が必要だと考える。

Q 12～15歳の接種予定は。

A 10月には希望の子供たちに接種できる。

Q 市民が接種を終えるのはいつか。

A 16歳以上は9月末完了の目標だったが、一部はそれ以降まで想定される。

Q 夏休みに感染者が増えた。学校の指導は。

A 朝の健康観察、検温、家族を含めた体調が悪い時の登校見合わせ、教室では1メートルを目安に席を離す、正面を向いての黙食など。

島原市の生活排水処理計画

Q 昭和55年に旧島原市で下水道計画が策定されたが、経緯は。莫大な費用をかけて下水処理をする必要はないと思う。

A 旧島原市では雲仙普賢岳災害など、様々な要因で事業へ着手できずにいた。合併後には計画見直し案について市議会から、建設事業費が巨額であることや生活排水処理手法を含め、計画の見直しの御指摘をいただいた。

今回、整備手法などを一から検討し、総合的に判断した結果、公共下水道よりも、合併処理浄化槽で整備する手法が本市にとって有効で合理的であると思い、方針を転換し、汚水処理人口普及率の促進に向けた快適な市民生活の制度設計を進めることを確認し、方針を固めた。

【その他の質問項目】

◇ごみ減量化対策について

◇8月の長雨による被害状況について